



令和 6 年

第 4 回 名 寄 市 議 会 定 例 会 行 政 報 告

名 寄 市

はじめに	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	2
・市民主体のまちづくりの推進	2
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	3
・交流活動の推進	4
・広域行政の推進	6
“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”	6
・健康の保持増進	6
・地域医療の充実	7
・地域福祉の推進	8
・高齢者施策の推進	9
“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”	10
・消防	10
・防災対策の充実	11
・交通安全	11
・消費生活の安定	12
・住宅の整備	12
・上水道の整備	12
・下水道・個別排水の整備	13
・道路の整備	13
・地域公共交通	14
“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”	14
・農業・農村の振興	14
・森林保全と林業の振興	16
・商工業の振興	17
・雇用の安定	17
・観光の振興	18
“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”	19
・小中学校教育の充実	19
・大学教育の充実	22
・生涯学習社会の形成	23
・生涯スポーツの振興	26
・青少年の健全育成	27
・地域文化の継承と創造	28

本日、令和6年第4回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

はじめに

はじめに、本年度の文化賞など、各種表彰について申し上げます。

11月3日の文化の日に、名寄市文化賞条例に基づき、風舞連に文化奨励賞を授与いたしました。

「芸術部門」、「郷土芸能・阿波踊り」で受賞された風舞連は、平成元年に東京都杉並区と旧風連町が交流自治体協定を結んだことがきっかけで、「ふうれん白樺まつり」に初訪問された高円寺阿波おどり親善訪問団の阿波踊りに魅了された町民有志の方々が集まり、平成5年に誕生しました。

その後、「ふうれん白樺まつり」や「風連文化祭」などのほか、風連町と名寄市の合併後においても「てっし名寄まつり」や「アスパラまつり」、「ふれあい広場」など様々な市内イベントで阿波踊りを披露し、地域文化として本市に欠かすことができない存在となっています。

創立から30年以上にわたり地域文化として発展・継承させてきた活動は、本市の文化の発展に貢献した団体として評価され、今回の受賞に至りました。

名寄市表彰条例に基づく各表彰については、自治、社会福祉、保健衛生、産業経済、住民運動実践の各分野で市勢の発展に寄与された19個人の皆様に功労表彰を、多額の寄附をいただいた9個人、37団体に善行表彰をそれぞれお贈りいたしました。

受賞された皆様には、今後とも本市の発展にご尽力を賜りますとともに、より一層のご活躍とご健勝を願っております。

次に、組織機構の改編について申し上げます。

少子化の進展により大学進学者数も減少が見込まれる中で、各大学間の競争も激しくなってくることが予想されています。名寄市立大学が市民にとって価値あるものであり、受験生から選ばれる大学として維持・発展していくために必要な大学の在り方を検討する大学特命課題担当参事を総合政策部に配置しました。

“市民と行政との協働によるまちづくり”

市民主体のまちづくりの推進

次に、市民主体のまちづくりの推進について申し上げます。

まちづくりの理念や基本ルールを示した「名寄市自治基本条例」について、公募委員など市民で構成される検討委員会で検討結果を取りまとめた意見書を受け、9月13日に庁内検討会議を開催しました。

意見書のとおり、現行の条例が市民意識や社会情勢の変化に対して改正の必要がないことを確認しました。

次に、コミュニティ活動の推進について申し上げます。

市民と行政との協働によるまちづくりを進めるため、名寄市町内会連合会と連携のもと、全3会場で「まちづくり懇談会」を開催し、多くの参加をいただきました。会場での貴重な意見を踏まえ、市政への反映に努めてまいります。

人権尊重と男女共同参画社会の形成

次に、男女共同参画社会の形成について申し上げます。

11月11日に助産師の吉田^{よしだせいこ}征子氏を講師に「子どもにも伝えたい性の話」をテーマに男女共同参画セミナーを開催し、43人の参加がありました。名寄市男女共同参画推進事業者等表彰では、市内で子育て支援事業を実施し、女性の就労や健康保持に貢献されている助産師の野口^{のぐちともこ}智子氏の表彰式を行いました。

11月12日から21日まで、市内商業施設で、女性に対する暴力をなくす「パープルリボン運動」の取組として、ポスターの展示と相談窓口の周知などを行いました。

交流活動の推進

次に、交流活動の推進について申し上げます。

山形県鶴岡市との交流事業については、10月19日から20日まで鶴岡市小真木原公園^{こまぎはら}で開催された「つるおか大産業まつり2024」に出展し、藤島・名寄交流友の会会員や藤島庁舎職員の協力のもと、ソフト大福などの特産品を販売しました。

東京都杉並区との交流事業については、10月25日から27日まで交流自治体協定締結35周年を記念した企画「ジャズを楽しみ杉並の魅力を知るツアー」参加者の市民13人が杉並区を訪問しました。区内で開催中の音楽イベント「阿佐谷ジャズストリート2024」の鑑賞や文化施設の見学などを通じて、杉並区の魅力を経験し、交流を深めました。

また、11月9日から10日まで杉並区桃井原っぱ公園で開催された「すぎなみフェスタ2024」に出展し、杉並区職員などの協力のもと、なよろ煮込みジンギスカンやソフト大福などの特産品を販売しました。

ふるさと会との交流事業については、東京なよろ会総会が10月5日に東京都内で開催され、スキーやゴルフツアーのほか40周年記念事業の実施など、本市の地域振興につながる事業に取り組むことが確認されました。

台湾との交流事業については、11月3日から8日まで、市内高校生3人を台湾に派遣し、台湾の高校・大学との交流を通じて語学を勉強するほか、台湾の文化・国民性・生活様式の違いなどを自ら体験し、国際理解を深めました。

また、令和7年1月9日から12日の日程で行われる、中学生台湾派遣事業については、本年度も9人の生徒を派遣する予定です。10月17日に結団式を行い、派遣に向けての学習会では、中国語の習得のほか、自国と相手国の文化や歴史に対する理解を深め、生徒たちは派遣の日を心待ちにしています。

次に、移住・定住について申し上げます。

名寄市移住促進協議会では、9月27日から28日まで大阪府で行われた「北海道移住・交流フェア2024」に参加し、移住相談及び本市の魅力発信を行いました。今後は、本市への移住につながるよう移住定住コーディネーターを中心に、相談者へのサポートを行ってまいります。

また、魅力発信の取組として、本市の懐かしさを感じるレトロな街並みやグルメなどの魅力を市内外に発信することを目的に、「レトロ」をテーマとしたインスタグラムフォトコンテスト及びフォトウォークイベントを実施しました。これらの取組を通じて、市民の皆様が本

市の魅力を再発見する機会につなげることができました。

広域行政の推進

次に、定住自立圏について申し上げます。

11月5日に本市で北・北海道中央圏域定住自立圏市町村長会議を開催し、定住自立圏共生ビジョンについて確認するとともに、北海道内の人口減少に伴う人材確保などについて北海道の^{やまもとともひこ}山本倫彦総務部長にご講演いただきました。

今後も、国や北海道の動向や他圏域の取組などを注視しつつ、新たな広域連携事業の研究などを進めるとともに、定住自立圏共生ビジョンの着実な推進を図ってまいります。

“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”

健康の保持増進

次に、健康の保持増進について申し上げます。

10月から市内医療機関で新型コロナワクチンの定期接種を行っています。65歳以上の高齢者などには、重症者を減らすことを目的に接種費用の一部を助成しています。

また、乳児の疾病の早期発見、早期治療及び健康増進を図るとともに、子育て家庭を支援することを目的に、1カ月児健康診査の費用の

助成を開始しました。

今後も妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援体制の充実を図り、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりを進めてまいります。

地域医療の充実

次に、名寄市立総合病院の上半期の運営状況について申し上げます。

患者取扱状況は、入院患者数が延べ3万9,928人で、前年比3,271人の減となり、外来患者数では延べ10万4,843人で、前年比4,553人減となりました。

収支の状況は、事業収益が前年比2億6,115万円減の44億8,122万円、事業費用が前年比2,191万円減の49億1,333万円となり、事業収支は4億3,211万円の純損失となりました。

また、昨年5月に着工した最新の医療機器を備えたハイブリッド手術室などの手術室増改修工事が10月に完了し、11月から全面供用を開始しています。

今後も当院の役割である急性期及び救急医療の維持・充実を図り、地域住民により一層安全で質の高い医療を提供してまいります。

次に、名寄東病院の上半期の運営状況について申し上げます。

患者取扱状況は、入院患者数が延べ1万580人で前年比6,369人の減となり、外来患者数では延べ3,290人で前年比495人の増となりました。

収支の状況は、事業収益が前年比4,151万円減の3億8,141万円、事業費用が前年比1,039万円増の3億2,574万円となり、事業収支は5,567万円の純利益となりました。

地域福祉の推進

次に、地域福祉の推進について申し上げます。

デフレ完全脱却のための総合経済対策における物価高への支援として、家計への影響が大きい低所得世帯に対し、「令和6年度新たな住民税非課税世帯等に対する物価高騰重点支援給付金」を、428世帯に4,280万円を支給し、同世帯で18歳以下の児童がいる場合には、「令和6年度低所得の子育て世帯こども加算金」を、36世帯58人に290万円を支給し、低所得世帯を支援しました。

また、令和6年推計所得税及び令和6年度個人住民税所得割から定額減税しきれない方を対象に、「定額減税補填給付金」を3,979人に16,126万円を支給しました。

高齢者施策の推進

次に、高齢者施策の推進について申し上げます。

9月21日に市民文化センターE N - R A Yホールで「長寿を祝う会」を開催しました。

長年にわたり本市の発展にご尽力いただいた、男女各1人の最高齢者をはじめ、白寿、米寿を迎えられた248人と金婚を迎えられた63組のご夫婦を招待し、記念品を贈呈しました。

併せて9月18日から24日まで「名寄市生きがい作品展」を開催し、93点の力作の数々を市民の皆様にご覧いただきました。

また、町内会など85団体が「敬老会」を開催し、75歳以上の5,664人が温かい祝福を受けました。

10月10日には、西町3区町内会や名寄警察署、FMなよろなどの関係機関の協力のもと、「名寄市認知症高齢者等S O Sネットワーク検索模擬訓練」を行いました。訓練では、「認知症高齢者等S O Sネットワーク」を用いて行方不明者情報を発信し、地域の方に捜索協力の呼びかけを行いました。町内会の方には、認知症の方や地域の中で面識のない高齢者に対しどのように接すればよいのかを体験していただきました。

今後も高齢者やその支援に関わる方が様々な知識を身に付ける機会の創出など、安心して住み続けられるための取組を進めてまいり

ます。

“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”

消防

次に、消防行政について申し上げます。

10月末までの火災及び救急・救助出動状況については、火災出動件数は8件で、前年比3件の増、死者が2人、負傷者が2人発生しています。

救急出動件数は994件で、前年比102件の減となりました。救助出動件数は35件で、前年比7件の減となりました。

消防団活動では、名寄分会女性消防団員研修会が開催され、災害時の炊き出し訓練を行いました。

職員訓練については、広域応援訓練、緊急消防援助隊受託訓練に隊員を派遣し、大規模災害時の出動及び活動に備えています。

秋季消防演習については、特別養護老人ホーム清峰園で特殊建築物警防計画に基づく火災想定訓練を職員・団員合同で行いました。消火活動と併せて清峰園職員と連携し、通報から避難までの手順を確認しました。

秋の火災予防運動については、防火パレードや市内商業施設での街頭広報、消防団員による一般住宅の防火訪問を行い、市民の皆様に

火の用心を呼びかけました。

防災対策の充実

次に、防災対策の充実について申し上げます。

11月9日に防災知識の普及啓発と防災体験を取り入れた「名寄市防災セミナー」を開催しました。

参加者は、災害に対する備えについて理解を深めるとともに、「いつ」「どこに」避難するのかなど、命を守るために取るべき行動について考える機会となりました。

今後も、関係機関と連携した防災活動の取組と合わせて、市民の自助・共助の力を高める防災知識の普及や防災・減災意識の啓発についての取組を推進してまいります。

交通安全

次に、交通安全対策について申し上げます。

交通事故のない住みよいまちづくりに向け、9月21日から30日まで「秋の交通安全運動」、10月17日から26日まで「秋の輸送繁忙期の交通安全運動」を行いました。9月30日の「交通事故ゼロを目指す日旗の波運動」では、関係団体から参加した202人が交通事故防止を呼びかけました。

消費生活の安定

次に、消費生活の安定について申し上げます。

9月28日に名寄消費者協会主催の「第52回みんなの消費生活展」が開催されました。本市は、各種啓発や防災・環境・地域交通など各部署がコーナーを設け、参加者との対話や体験を通じて消費者が安心して暮らすための情報提供を行いました。

住宅の整備

次に、住宅の整備について申し上げます。

公営住宅整備事業は、瑞生団地住棟建設及び解体工事、緑丘第1団地改修工事を完了しています。

上水道の整備

次に、水道事業について申し上げます。

老朽管更新、管網整備及び水道量水器取替工事について、本年度の事業を完了しました。

また、適切な水道料金のあり方について、上下水道事業経営審議会に諮問を行い協議をいただきました。審議会からの答申を踏まえ、安定的な事業運営に向けた検討を進めてまいります。

下水道・個別排水の整備

次に、下水道・個別排水事業について申し上げます。

公共下水道施設整備については、マンホール蓋更新工事に着手しています。

また、個別排水処理施設整備事業については、2基の合併浄化槽の整備を進めています。

道路の整備

次に、道路・橋梁の整備について申し上げます。

市道の整備については、北3丁目通、他4路線の工事が完了し、東2条通と南西5条仲通の改良舗装工事に着工しています。

橋梁の整備については、18線橋^{せんばし}の修繕工事に着工しています。

次に、市道の除排雪について申し上げます。

本年度の除排雪対策については、除雪延長437キロメートル、排雪延長147キロメートルを実施する計画としています。

10月15日に名寄地区、風連地区の除雪事業の契約を締結し、本年度においても効率的で効果的な除排雪体制の確立に努めるとともに、安全な道路空間の確保を図るため、幹線道路ではこれまで同様に複数回の排雪と積上げ除雪を行ってまいります。

地域公共交通

次に、地域公共交通について申し上げます。

9月に開催された名寄市地域公共交通活性化協議会において、今後の名寄市街地の移動手段の方向性としては、コミュニティバスからの一と名寄へ集約すると専門部会からの報告がありました。今後はこの報告を基に交通事業者と調整を行いながら市内全体の公共交通の最適化を進めてまいります。

“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”

農業・農村の振興

次に、農業・農村の振興について申し上げます。

はじめに主要農作物の作柄さくがらなどについて申し上げます。

水稻については、9月25日現在の農林水産省の作況指数では、全国で102の「やや良」となり、北海道は103、上川でも103の「やや良」となりました。本市の11月8日現在の出荷状況は概ね9割で、もち米ごめ36万俵、うるち米まい2万俵、合計38万俵となりました。

畑作については、天候にも恵まれ、スイートコーンをはじめ、馬鈴しょやかぼちゃなど作柄さくがらは順調で前年比収量増となっています。

畜産については、10月末での過去1年間の生乳生産量は1万6,080

トン、^{にゅうだい}乳代は平均で1キログラムあたり121円となり前年比109パーセントで推移しています。

次に、経営所得安定対策について申し上げます。

転作作物では、10月31日現在で対象農家403戸、対象面積5,448ヘクタールで、水田活用の直接支払交付金が12億6,713万円、^{しんしじょう}新市場開拓等促進事業が3億1,678万円、畑作物産地形成促進事業が2,518万円となり、合わせて16億909万円の年内交付を予定しています。

畑作物では、直接支払交付金のうち、既に営農継続払い4億554万円が交付されており、今後は数量払いの交付を見込んでいます。

次に、労働力確保対策について申し上げます。

名寄市立大学生の農作業従事では、アスパラガス、スイートコーンの収穫期において、合わせて受入農家20戸に学生70人の参加がありました。

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

10月31日現在、エゾシカ駆除については452頭、アライグマ駆除については、379頭で前年比51頭増加しています。

ヒグマ対策については、本年度の捕獲許可期間を12月30日までとしており、10月31日現在の出没情報は122件と前年比63件増加しています。

次に、担い手対策について申し上げます。

本年度の新規就農者は、地域おこし協力隊からの新規参入1人、新規学卒3人、Uターン2人の合わせて6人となりました。

また、11月には名寄市農業担い手交流会が開催され、出席した新規就農者が先輩農業者、関係機関・団体からの激励を受けるとともに交流を深める場となりました。

森林保全と林業の振興

次に、森林保全と林業の振興について申し上げます。

森林環境譲与税の活用については、これまでに「森林整備」では保育間伐や根踏みなど50ヘクタールを、「人材育成と担い手確保」では、事業者が実施する林業研修資格取得などに係る経費の補助、林業担い手確保の取組に対し支援を行うほか、「普及・啓発」では、10月12日に開催された名寄川堤防の桜並木を守り育てる会の植樹活動などに支援を行いました。

商工業の振興

次に、商工業の振興について申し上げます。

名寄市電子地域通貨「Y o r o c a」については、昨年11月23日の開始から1年が経過し、1周年記念キャンペーンなどが行われました。これまでの実績として、電子マネー利用額2億9,700万円、付与ポイント利用額1億3,800万円相当額となっており、合計4億3,500万円相当額が市内で循環されています。

引き続き、関係団体との連携を強化し、地域DXの推進に基づくまちづくりと地域経済の活性化の推進を図ってまいります。

雇用の安定

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワーク名寄管内における9月末の雇用情勢につきましては、有効求人倍率が1.35倍と求職者に対し、求人数が上回る人手不足の状況が継続しています。現在、市内各事業組合、経済団体・関係団体などで設立された人材確保に係る協議会において、市内事業所への労働実態調査、市内の中学生、高校生及び大学生へのアンケート結果をもとに意見交換が行われており、今後、人材不足に係る各種取組が実施される予定となっています。

観光の振興

次に、観光の振興について申し上げます。

道の駅「もち米の里☆なよろ」については、9月末までの入込客数は25万1,735人で前年比7,817人の増、売上額は前年比6.0パーセントの増となりました。令和元年度と対比しても、入込客数は84.4パーセント、売上額は104.3パーセントとなり、入り込み、売り上げともに回復しつつあります。今後も指定管理者と連携を図り、魅力ある施設づくりに取り組んでまいります。

9月の週末には3週連続で、豪華観光列車「ロイヤルエクスプレス」が宗谷本線を運行し、JR名寄駅停車時には延べ234人の市民の皆様がお出迎えしました。もち米日本一をPRするもちつきを駅構内で披露し、乗客の皆様にも体験していただくなど、旅の記憶に残るおもてなしで、大いに盛り上がりました。

市内在住のタレント、ミッキー・カーチス氏主演の、オール名寄ロケの短編映画「運命屋」については、ニューヨーク、ハリウッド、タイの短編映画祭において、最優秀中編作品賞、最優秀俳優賞、最優秀プロデューサー賞を受賞するなど、海外においても高い評価を受けています。11月2日の札幌を皮切りに東京、名古屋、大阪、京都、神戸などでも順次公開され、公開終了後もインターネット配信が行われる計画となっており、広く本市の知名度の向上につながってい

ます。

“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”

小中学校教育の充実

次に、小中学校教育の充実について申し上げます。

信頼される学校づくりの推進として、地域とともにある学校づくりの推進については、9月から11月にかけて、市長・教育長の学校訪問を実施しました。各学校では、授業参観、学校施設見学ののち、児童生徒と一緒に給食を食べ、子どもたちと交流しました。

また、各学校において第2回学校運営協議会が行われ、学校の前期評価に基づく教育活動の進捗状況や地域学校協働活動について、協議が行われました。

小中一貫教育については、9月13日に北海道教育委員会主催の「学校種間連携サポート事業」全道研修会に智恵文小中学校が参加し、小中学校9年間を見通した教育課程の編成と実施について、理解を深めました。

また、風連地区では、夏季休業中の中学生ボランティアによる小学生学習会や、小学生が朝から帰りまでの1日を中学校で過ごす、1日体験入学の実施など、小中連携した新しい取組が行われました。

生きる力を育てる教育の推進として、確かな学力を育てる教育の

推進については、11月8日に風連中央小学校と名寄中学校を会場に、名寄市教育研究大会を開催しました。風連中央小学校では、「個別最適な学び・協働的な学びを深める子供の育成～日常につながる算数科の授業づくりを柱として～」をテーマに、算数科の授業を公開し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業のあり方について、理解を深めました。

また、名寄中学校では、「道徳性を育み、互いを認め合う生徒の育成～考え、議論する道徳科の授業構想を通して～」をテーマに、道徳科の授業を公開し、自己の弱さを克服する強さ、本当の友情、命の尊さなど、多面的・多角的に考えさせる授業展開について、協議を行いました。

豊かな心を育てる教育の推進については、9月26日に市民文化センターE N - R A Yホールで、子どもの豊かな情操を育むため、名寄市小中学校音楽発表会を開催しました。児童生徒にとって、練習の成果を発表できる良い機会となりました。

健やかな体を育てる教育の推進として、学校給食については、10月2日と22日を「なよろ給食の日」とし、児童生徒の地場農産物に対する理解が深まるよう、旬な名寄産食材をふんだんに使用した献立を提供したほか、11月7日には、姉妹都市である山形県鶴岡市藤島地域の庄内柿を提供し、児童生徒に好評を得ています。

なお、名寄市学校給食会では、本年4月に給食費を改定していますが、物価高騰による影響で食材費の値上げが続き、現状の給食費ではこれまでと同様の献立を提供することができないことから、本市では学校給食会会計の本年度分の不足見込額を支援することで、保護者の負担軽減を図ります。

また、学校給食会では、令和7年度以降についても物価高騰の影響が引き続き見込まれるため、令和7年4月においても給食費の改定を行うこととされました。本市では、改定により引き上げとなる金額についても市が支援を行うものとし、関連する2件の補正予算案を本定例会に提案しますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

社会の変化や多様な教育のニーズへの対応として、特別支援教育の推進については、11月12日に市内小中学校をはじめ、上川管内北部9市町村の教職員等を対象とした特別支援教育研修会を開催し、社会的養護、社会的養育の観点から見える子どもたちについて、研修を行いました。

不登校児童生徒等の支援体制の強化については、10月11日に「不登校児童生徒に対する支援の在り方交流会」を開催し、各学校の教頭、生徒指導担当、特別支援教育コーディネーター、教育相談センターが

不登校児童生徒の状況について交流し、今後の対策について協議を行いました。

部活動改革の推進については、9月24日に、北海道教育大学岩見沢校キャンパス長の山本理人^{やまもとりひと}教授を昨年度に引き続き講師に招き、「NAYOROスタイル部活動改革推進ワークショップ」を開催しました。教職員や部活動指導員、競技団体関係者など、47人の参加があり、改めて子どもたちの持続可能な文化芸術・スポーツ環境を地域全体で作るための取組方法などについて、考える機会となりました。

安全安心な教育環境の整備として、名寄中学校の改築工事については、9月に着工しています。

名寄東中学校整備事業については、名寄産業高校光凌キャンパス改修工事の実施設計委託業務を9月に着手しています。

名寄小学校屋内運動場非構造部材等改修工事は9月に、旧智恵文小学校の解体工事は10月に、智恵文小中学校のグラウンド整備工事は11月に完了しました。

大学教育の充実

次に、名寄市立大学について申し上げます。

名寄市立大学への理解を深め、進路決定の参考としていただくた

め、高校生と保護者を対象に本年度3回目のオープンキャンパスを9月28日に行い、高校生113人、保護者97人の参加がありました。

各学科教員による模擬授業や学生との交流、保護者には「なよろを観るバスツアー」にて、在学生の生活スポットや実習先など各所を巡り、本学及び本市の魅力を伝えるとともに、学内ツアーでは、学生の修学及び生活環境をより身近に感じていただきました。

また、10月5日には、北海道テレビ放送株式会社とコラボレーションした道内初となる進学イベント「名寄市立大学トークイベント2024inHTB本社スタジオ」を開催しました。大学の全体説明、学生による各学科の特徴などの説明を行い、第1部、第2部で延べ32人の高校生と保護者が参加しました。

選抜試験については、11月21日に学校推薦型選抜・社会人選抜を実施し、今後は、2月25日に一般選抜前期日程、3月12日に一般選抜後期日程を実施します。

今後も地域に根ざした教育活動の展開と名寄市立大学の特色と専門性を活かした学生確保に取り組んでまいります。

生涯学習社会の形成

次に、生涯学習社会の形成について申し上げます。

10月6日に、市民文化センターで「生涯学習フェスティバル2024in

なよろ」を開催しました。出会いの広場には2団体が出演、ワークショップブースには飲食販売ブースも含め13団体が出展し、会場は多くの来場者で賑わいました。

名寄ピヤシリ大学では、11月19日に大学祭を開催し、同大学のクラブ活動で制作した作品を多数展示したほか、芸能発表を行い、クラブ活動で練習を重ねてきた歌や踊りを発表しました。

風連瑞生大学では、10月9日から10日まで旭川、美瑛方面へ研修旅行を行いました。13人の参加者は、施設見学などを通じて学生間の交流を深めました。

名寄市公民館では、10月30日から全7回の日程で、市民講座「アコースティックギター体験教室」を開催しています。17人の受講者は、チューニングやコードの押さえ方など、演奏方法を熱心に学んでいます。

次に、市立図書館について申し上げます。

読書週間企画として、10月27日に「ハロウィンおはなし会」を開催し、図書館は仮装した子どもたちで賑わいました。

11月3日の「文化の日特別開館」では、雑誌リサイクルやフィルムコートサービスを行い、来場者から好評を得ました。

次に、北国博物館について申し上げます。

10月4日から29日まで、道北地区博物館等連絡協議会巡回展「道北の鉄道」を開催し、道北地区の博物館や教育委員会がそれぞれの地域の駅や廃線をパネルで紹介するとともに、本市独自の企画として、廃止になった鉄路や駅、現在も改築されながら使用されているJR名寄駅の変遷をパネルと模型で紹介し、かつて3本の鉄路が交わる交通の要衝として発展を遂げた、本市の鉄道の歴史を知っていただく機会としました。

11月1日から企画展「名寄岩生誕110年記念展」を開催し、本市が生んだ名大関名寄岩めいおおぜきの波乱に満ちた相撲人生をパネルと写真で紹介するとともに、化粧まわしや座布団など、名寄岩が愛用した品々も展示しています。期間中は本人が主演した映画「涙の敢闘賞」を博物館内で2回上映し、多くの方に鑑賞していただきました。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

9月21日に、本年に入り複数回観測されている、低緯度オーロラに焦点を当てた市民講演会を開催し、関心の高さから90人の参加がありました。

また、同日から10月31日まで「低緯度オーロラ写真展」を開催し、スケール感のある幻想的な写真を多くの方に見ていただくこと

ができました。

10月16日から20日まで「紫金山・アトラス彗星観望会」を開催しました。肉眼で見えるほどの明るい彗星は4年ぶりということもあり、196人の参加がありました。

生涯スポーツの振興

次に、生涯スポーツの振興について申し上げます。

スポーツ施設の整備については、子どもたちの遊び場として利用が多い、なよろ健康の森遊具の改修工事のほか、同施設内のクロスカントリーコース支障木伐採、盛土及び暗渠整備工事を行い、より良い環境を整えました。

スポーツ振興事業については、Nスポーツコミッション主催の街なか運動会や、昨年に引き続き、名寄高校部活動版オープンスクールを名寄高校、市、教育委員会で共催し、連携して各種スポーツイベントを実施しています。

また、新たな取組として、名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター、大阪体育大学、市、教育委員会が共同して、市内の小学生の保護者を対象とした「名寄市の子どもの運動習慣および保護者の意識調査」を実施し、今後は、調査結果を子どものスポーツ環境を充実させるための基礎資料として活用していきます。

スポーツ合宿推進事業については、令和7年2月に開催が決定している第74回全国高等学校スキー大会に続き、3月5日から9日の日程でJOCジュニアオリンピックカップ2025全日本ジュニアスキー選手権大会兼全国小・中学生選抜スキー大会が本市で開催されることが決定しました。市内関係団体の皆様のご協力に感謝を申し上げますとともに、市民の皆様には、参加される選手の応援をお願いします。

次に、名寄市スポーツ協会、風連町スポーツ協会、Nスポーツコミッション、3者による組織統合については、令和4年7月から計11回の検討会などで協議を重ね、本年10月22日に組織統合に関わる基本合意がなされました。

3団体の関係者、並びに加盟団体の皆様のご決断に敬意と感謝を申し上げます次第です。

現在、令和7年度の早い時期に新組織を設立しスタートできるよう、関係者の皆様が一丸となって準備を進めていますので、本市も引き続き、新組織設立のサポートをしてまいります。

青少年の健全育成

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

11月23日に風連B & G海洋センターにおいて、第18回名寄市子ども会フットサル大会を開催し、参加した子どもたちは、ゲームや応援などを通じて交流を深めました。

次に、青少年センターについて申し上げます。

10月28日に名寄市青少年表彰式を行い、学校やボランティア活動などにおいて顕著な功績のある2個人、1団体を表彰しました。

また、小学生から高校生までを対象に、名寄市青少年健全育成標語を募集し、11月28日に最優秀作品の表彰を行いました。

地域文化の継承と創造

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

9月13日に市民文化センターEN-RAYホールで、劇団四季によるミュージカルが市内の小学校5・6年生を対象に開催され、鑑賞した子どもたちは、迫力ある音楽やダンスに感動を受け、会場には大きな歓声と拍手が響きわたりました。

11月2日から3日にかけて、市民文化センター、ふうれん地域交流センターで、文化祭が開催されました。

EN-RAYホールで行われた芸能発表では、23団体から343人が出演し、日頃から練習を重ねてきた歌や踊りなどを披露するとと

もに、東館を中心とした展示発表では、26 団体、5 個人から 987 点の作品が展示されました。

ふうれん地域交流センターで行われた演芸発表では、小学生から高齢者まで 12 団体、1 個人から 146 人が出演し、演奏や踊り、歌などを披露するとともに、作品展示では、17 団体、3 個人から 519 点の力作が展示されました。

両会場ともに、来場者は発表に大きな声援を送るとともに、展示作品を熱心に観覧するなど、楽しいひと時を過ごしました。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。